



新生

第 47 巻
秋 号
新 生 会 広 報

なんぢ人^{ひと}を塵^{ちり}にかへらしめて宣^{のたま}はく人^{ひと}の子^こよなんぢら^{かえ}歸れと
なんぢの目^め前^{のまえ}には千^{ちとせ}年^{ねん}もすでにすぐる昨日^{きのふ}のごとく また夜^よ間^{のま}のひとゝきにおなじ

—詩篇 第90篇3～4節—

Thou turnest man to destruction; and sayest, Return, ye children of men.

For a thousand years in thy sight are but as yesterday when it is past, and as a watch in the night.

—PSALM90:3-4—

ひとときをよめる 上田亜樹子

仕事以外のご葬儀にはあまり出ない。なぜならご本人は既におられないし、またいづれ「あちら」で再会するし、慌てることはないと思うからである。しかし本音は、お別れが辛いから、行きたくないのである。でも今回は違った。私を小学生のときから知る牧師夫婦の妻が先に逝ってしまった。退職後、彼らは遠くに移り住み都会人間なのに畑を始め、採れた野菜や果物を加工して人に配りまくり、パンを焼き、楽しそうに生活していた。行きの新幹線から連絡すると、九〇を過ぎた先生が駅まで車で迎えに来るが、ずっと大声で喋りまくりその運転は荒い。話の内容を忘れるほど、乗っているのが精一杯で、到着した頃にはヘトヘトだ。しかしお家に着くと、今度はお二人同時に元気に喋る。でも、どちらに耳を傾けるべきか迷う必要はない。ここはそうじゃない。実家に帰った娘（たぶん）のように、手作りパンを食べ、話の深みはそこそこに、楽しそうな彼らの様子を見て、わたしは幸せに浸っていた。葬儀の場に着くと、先生はひとり小さくなつて、あんなにお喋りだったのに黙って立っていた。彼女と共に今までの日常生活全部を失った気持ちだったろう。涙も出ないま

ま、必死で呼吸していた。そんな先生を私はそうっと抱きしめた。

人は、どんなに歳を重ねても、今まで遭ったことのない新しいチャレンジを受け、戸惑い、迷いながら、人生を選択していく。その年齢に達した自分の心と身体に出逢うのは、その人にとって「生まれて初めての経験」だから。しかしどんなにどん詰まりの中でも、生きていく限り、その人にしか切り開けない突破口、生き直し歩み出していく道はちゃんと用意されているはず。時期と方法は千差万別だし、自由などないと絶望しても、神は用意されている。

歳を重ねていくことは、何かを失い、別の人間になることではない。身体や心や思考の状態が想定外となることは罰ではなく、個々に与えられた恵みの可能性でもあることを、かつての新生会でのボランティア体験で知ったと思う。

言葉を失っていた牧師先生も、必ずや道を見いだすことを祈つて。

上田亜樹子

一九五六年神奈川県生まれ。

二〇代の頃、VACに参加。

アメリカにて司祭接手後、二〇〇三年に帰国。

現在、日本聖公会司祭。



不滅

世の中に、無くなるという事はない

生命のあるものは必ず実現する

人間のまごころから現われる

汗が、涙が、祈りが

無意味に消えるものならば

どうして、げんぜん 巖然たる宇宙の調和が

成りたつか

今朝も太陽が東から昇った

後藤静香著

「天よりの声」より



原 慶子

「日常の一齣ひとこと」と「大志遠望」

コロナ騒動には終りが無いようです。コロナパンデミックを通して、主権者の大文字の経済ECONOMYと私たちの生活経済・小文字economyの格差は更に広がり、教育・福祉の分野の担い手不足は大きな社会問題になっていきます。前者はコロナ騒動によって更に富裕になり、後者に属する人々の生活はより一層貧困と困難にさいなまれております。

新生会も少なからず、物心両面にわたってコロナ被害を受け、元気をなくしてきます。コロナはウイルスが人間の体に入り、しかも伝染していくので、日常生活が大きく変りました。人々は、日常生活と健康問題のことしか考えなくなりました。日常に埋没し、「世界がどんな状況にあるか」とか「生き甲斐」とか、精神的・理念的な思考よりも、物理的物象的生活の在り様に拘泥するようになっていきます。

日常の一こまを楽しく、仲良く生きることもとても大切なことです。そのために私たちは経済と精神のバランスのとれた仕事をして行こうとするのです。私はどちらかと言えば

精神的充実を追い求める人間です。それ故に、夢・ヴィジョン無しには生きられない人間です。新生会の仕事を引き継ぐと決断したのは三〇歳の時です。決断できたのは、新生会の将来的ヴィジョンが大きく育まれて行ったからです。そのヴィジョンとは「真の人間力が躍動する社会環境」を創出することです。新生会的には「居住者と職員が生き生きとその人らしく活躍し生きることのできる居場所」を実現することです。その根幹にキリスト教と芸術があります。原建築設計事務所の絶大な協力を得て住環境の整備に当たってきました。その一環に「地球市民祈りの家」とHALCコミュニティセンターの建設があります。「地球市民祈りの家」は、創設者 原正男の念願であり、後継者が引き継ぎました。「HALCコミュニティセンター」は、福祉の芸術化をモットーとする原 慶子の目標です。

二一世紀に入って「地球市民」と「HALC」(人間・芸術・生命・愛)というヴィジョンは大きく前進させなければなりません。そのためには具体的な形にすること―それが「実現する」ということです。そして私の大志遠望です。覚悟と祈りの内に一歩ずつ実現に近づけて行きましよう。

二〇二一年にこの「新生」の第四四巻春号の巻頭に「夕焼け 無限真理」という短文を書きました。その中にパスカルとの出会いを書きました。

出会いの種類はいろいろありますが、「出会い」はただの偶然ではないと思っています。「偶然ではない意味のある出会い」、これは私にとっては幼い頃からの感覚と言えるものです。

パスカルは知っている。でもパスカルの「パンセ」を読んだ人は少ないかもしれません。どなたも名前だけは聞いたことがあると思います。今も昔も中学生になると「パスカルの原理」というものが授業に出てきます。これは圧力に関する原理です。それで、圧力の単位として、「Pa」（パスカルと読みます）が使われています。気象情報としての気圧の単位は「hPa」（ヘクトパスカルと読みます）が使われています。その他数学の「円錐曲線試論」などの論文も書いています。彼は科学者・数学者としてキリスト教思想家、哲学者といういろいろな面を持っている人です。

私が高校生のときに、ある友人からパスカルの書いた「パンセ」について聞いたのがきっかけでこの「パンセ」（松浪信三郎訳）を読み始めたのです。この中には皆さんも知っている有名な言葉としては「人間は考える葦である。」と言う言葉や、「クレオパトラの鼻、それがもう少し低かったら、大地の全表面は変わって

いたであろう。」と言う文も出てきます。それは非常に断片的に書かれている文章の中のほんの一節なので、彼は病氣と闘いながら命を削りながら真剣に思索を続け、三九歳で亡くなるまでその断章を次々と書き留めたのでした。それをまとめたのが『パンセ』です。

高校生の私は読み進めていくうちに「人間の悲惨さについて」という箇所を読み、引き込まれて行きました。彼の言葉の中に「わたしはなぜこの場所にいるのか、しかもこれまでの長い無限の時間とこれから先に



パスカルと出会って 偶然ではない出会い

共愛学園 学園長 大川 義

ある永遠の長い時間があるのにどうして今ここにわたしはいるのだろう。」という文があります。感覚的なことですが、無限という言葉から、自分が無限の中に引き込まれる感覚でした。

それ以来、無限の広がりを持った宇宙の中にある私ということ、しかも、私は宇宙の中の有限の存在として生きており、しかも、生きていられる時間も、たとえ百年としても、この宇宙で時間が始まってから無限の時間の中のほんの一瞬に過ぎない。そんなちっぽけな自分を考えさせる

文章がいくつも出てくるのでした。

このようにして出会ったパスカルですが、この人は一体どういう生活をしてきた人なのかという興味が湧いてきたのでした。本を読む時、その著者はどのような人間かということに興味を湧くはずで、しかも「パンセ」の翻訳者の人も「この出会いは偶然などではない。」と言う人もいます。「私と同じだ。」と共感してしまいます。そして私の場合、彼がなぜこのパンセを書くに至ったかを知りました。それこそ彼は神様に出会ったからだだったと言えます。彼が

す。それにはこうありました。「火。アブラハムの神、イサクの神、ヤコブの神、哲学者の神ではない。確実性、確実性、感動、喜び、平和。イエス・キリストのみを通して。」

彼はモーセが神に出会ったとき、柴が燃えているその火の中から神の声を聞きました。かれもおなじ「火」の体験をしたのでしょうか。

そしてこの部分で、彼は自分が経験した神の存在が、理性や哲学によつて理解される神ではなくて個人的で直接的な啓示としての神であることに驚き、そしてこれが彼にとつて神との決定的出会いとなりました。

本当に神の前に一人の人間として立っていたのでした。私はこの書物の上でパスカルに出会ったことは、私には大きなエポックとあったのでした。

私自身の上にも、同じ事が起こったのです。わたしがヨハネによる福音書一四章を読んでいるときに、「別の助け主」という言葉が眼に入った瞬間に突然起こったのでした。聖書の文字が踊り出て来るのでした。私の感覚的には「主は生きておられる」と叫びたくなるほどの喜びだったのでした。それは一九八九年八月四日でした。パスカルが「火の体験」で神と出会ったように、私も主と触れたのでした。あまりのうれしさに涙が止まりませんでした。それから私には次々と聖霊の働きを教えられる体験を主から頂いたのです。

特集

地の塩・世の光として、《神の愛》に根ざす協働体である！

生物兵器としての

自己複製ワクチン

原 慶子

「コロナは居続けている」

この特集を私が始めたのは二〇二〇年の春号からだっと思ひます。私にとつては、新型コロナウイルスの蔓延よりも、それに対する世界的なロックダウン（都市封鎖）の方が驚きでした。人々はあつという間にロックダウン政策に従い、ライフスタイルは孤立化しました。（注1）ロックダウン 二〇一九年末に始まるCOVID-19パンデミック（新型コロナウイルス感染症の世界的大流行）に際し世界の各都市で採用された感染大防止策。この厄災の中で人々は行動の自由を制限され「幽閉」と「包囲」の生活を強いられることになった。）

生まれて初めての、このロックダウン政策に納得できず、自身のライフスタイルはなるべく今まで通り維持する一方、COVID-19ウイルスについて、また、今までにない世界的ロックダウン政策のよつてきたる要因など、クリティカルに考察してきました。その表現が、機関紙「新生」における連載となりました。五年たった今も人々はマスクを外せず怯

えています。表向きロックダウン政策は緩和されたように思えますが、パンデミックを通して、超国家的権力集団が更なる悪巧みをしているように思われます。「私たちがロックダウンに追い込んだ有名なウイルス（新型コロナウイルス）は今なお居続け、人間の口から口へ広がり続けるために微小な変異を繰り返している。これもまた微細な発明の積み重ねなのである。」（私たちはどこにいるのか 惑星地球のロックダウンを知るためのレッスン）ブルーノ・ラトゥール・新評論）文中に「微細な発明の積み重ね」とありますが、この表現はとても微妙です。ブルーノ・ラトゥールは明確には言っていない

ませんが、COVID-19も元々あつたウイルス（微生物）を人間の体に有害ウイルスとして感染させ、体内で変異しながら人間の生命を脅かすという発明であつたのかもしれない。もつと深刻なのは、ワクチンです。私自身は一度もワクチンを接種していません。（注2）予防接種 伝染病の発生、流行を予防するために、弱毒化した病原体あるいは不活化した病原体の生産した毒素をワクチンとして注射または経口的に接種して人工的に免疫を与えること。ワクチン接種は初めの内は半ば強制でした。三回目ワクチンの接

種後当りから副作用で重症化、死に至ることなどが判明してきたので接種する人は減少してきましたが、行政側からのワクチン接種の強要は五回、六回と続いています。今や変異する新型コロナウイルスよりも、ワクチンの方が人間の健康（生命）を脅かす物になっています。

自己複製ワクチンは人類や他生物に地球規模で危害をもたらす恐れがある

「」からは [Newsweek Bill Gates Reveals Plan to Change Vaccines Published Jan.18, 2024 at 1:41 PM EST By Matthew Impallio] (ニューズウィーク「ビル・ゲイツの新たなワクチン計画」二〇二四年一月一八日発行 マチュー・インペリ)

の記事を抜粋したものになります。(1)ワクチンを変えろというビル・ゲイツの悪魔的な計画が、なお一層加速されている。彼の世界的なmRNAワクチンの接種促進企画に則つたロックダウンや、ワクチン接種の義務化を支援した後、ゲイツは今や世界中の人々に「より長く持続し、より広く行き渡る」ワクチンの接種をさせたいのである。これが人体内で自己複製するように考案された「自己複製する」新種ワクチン（saRNAワクチン）に託された狙いである。

(2)二〇二四年一〇月までに、日本はこの「自己複製ワクチン」と呼ばれる

る物騒な新種「コロナ・ウイルス感染症予防ワクチン」を導入する最初の国になる。(3)もしこれらのsaRNAワクチンがmRNAワクチンと同じようなものであれば、心臓や脳が受ける障害は継続し止められず、苦痛と早死を起す前駆体となる。更に悪いことには、ワクチン接種後数か月間、場合によっては数年間は発散作用が確定されることになり、ワクチン接種者は毒物工場と化して生物兵器使用の戦場を拡散することになる。

科学技術を悪用して「悪事を企む」のは誰か

二一世紀初頭（人新生）、今ほど一般の人間社会（生活共同体）と、権力集団が分裂（分断）している時代は歴史上見当たりません。更に私たちが認識している政治共同体としての権力集団の上には、私たちの前には姿を現さない「人類と地球を操作する悪巧み集団」があるのだと思えます。それがトランス・ヒューマニズム（超人間主義）です。（注3）本来は、科学技術を使って人類自らを超越する「超人」を目指す科学哲学的運動を指したが、現在は全人類の統一支配を目指す超国家的エリート集団ないし「影の世界政権」が科学技術を使って人間変造を企画し提唱するイデオロギー）こんな最悪のイデオロギーは、絶対に阻止しなければなりません。それは一人一人の人間の決断と実行にかかっています。



創立記念式典

社会福祉法人新生会では創立六七周年を記念して、去る七月三〇日にホテルメトロポリタン高崎において記念式並びに祝会を執り行いました。記念式は法人のこれまでの歩みをお祝いし、更なる発展を願う節目の一つの行事でもあり、またそこで働く職員の永年に亘る勤続を称え、永年勤続表彰の場となっています。

今年には四四名の職員に原慶子理事長より表彰状と副賞が授与され、勤続三〇年勤務された特別養護老人ホーム榛名憩の園ケアワーカーの大澤敦子さんが謝辞を述べられました。大澤さんは平成六年四月に一五人の同期となる方と一緒に希望と不安、そして熱い福祉への想いを抱き入職されました。最初の配属先は養護老人ホーム恵泉園で失敗の連続だったそうです。その半面、居住者の皆さんは活気に溢れ、その雰囲気にも馴染めず苦悩されました。居住者の方から「毎日、笑顔で挨拶するだけで良い」と助言を受け、少しずつでも笑顔が心がけるようになったこと、時間が経つにつれ、居住者との

関わりが深まり、笑顔や喜び、時には悲しみや苦しさを分かちあうことで、自分自身もこのご縁に感謝し、「最後までお世話させていたたく」という誓いをとどめケアに努めるようになったこと、同期達との絆も深まり、共に語り合った時間はかけがいのないものであり、宝物であると述べられました。同期の最後の一人となった村田大二さんは二年前に厳しい病気との闘いの末、帰らぬ人となりました。今回の表彰式では一人での出席となり、「彼の思いを胸に刻み、これまで以上にがんばってきたいと思います」と力強い決意を述べられました。

記念式後に行われた祝会では、新生会の理事で、後援会の副会長でもいらっしゃる村山壮人氏による指笛が披露され、新生会の新たな歩みに華を添えられました。



被表彰者記念撮影

逝去記念礼拝



8月6日逝去記念礼拝
奨励者：若林 毅

七九年前に広島に原爆が投下され

平和への思いを強く願うこの日、

一九九九年八月六日に新生会創設者

である原正男先生が逝去されました。

新生会三〇年史を紐解いてみると、当時の何もないゼロの状態から

法人を設立するまでには、言葉では

語りつくせぬほどの困難や苦難があ

ったと想像します。正男先生はま

さに「死に物狂い」の胸中であった

のではないのでしょうか。その正男先

生をお支えるツヤ先生の愛は、私

たちの想像をはるかに超えるほど大

きくて偉大なものであったのでしょ

う。ツヤ先生の支えのなかで我が信

念を貫き、新生会を設立できたのは、

正男先生の魂から湧き上がる情熱の

賜物であったと思います。

施設長になった私は、新生会創業

の精神と誓いの言葉に心を向けてケア実践することを心がけています。あなたのために私が向き合い支えていくことは、実はあなたが私にも大きなものを与えてくださるのだというのを、新生会での働きを通して学ぶことができました。私たちは目の前のあなたを愛し当たり前に救いたい。これが新生会職員としての大切な精神軸であると考えます。そしてその他者への救いは自分自身への救いと成長にもつながっていくのではないのでしょうか。

我々は常に新生会の実践が特別なことと感じられる社会そのものに対して常に疑問と違和感をもって、求められる全ての人々のためにケアを積み重ねていきます。その積み重ねが正男先生とツヤ先生が目指していたものを継承し続けることにつながるのではないかと考えます。そして原慶子理事長が提唱する支え合い・分かち合い・育み合いの精神に従い、ゆるぎない信念と情熱をもって取り組んでいくこそが、正男先生とツヤ先生を存じ上げない私たちが世代の使命であると肝に銘じます。私たちの実践によって、新生会創業の精神と誓いの言葉が、色あせることなくますます輝きを放ち、躍動できるようにこれからも努めてまいります。

高校生職場体験イベント

前回夏号で発信された新生会リクルート委員会。若手を中心に毎月会議を行い、新生会を知っていただくには、学生を呼び込むにはどうすればよいかなどを模索しています。さて、うわさのSNSの状況はといえば、各方面から多くの反響をいただいております。Instagramの登録者数も日に増えております。目指せ

一〇〇〇人を目標に月替わりで担当が変わり、新生会の魅力やプチ情報などを発信中。スタッフも知らない情報が盛りだくさんです。まだ登録されていない方は是非登録よろしくお願ひします。

さてさて、予告しておいたイベントもちゃんと実施しております。八月七日に高校生を

対象とした老人ホーム体験プログラム「遊んで×学んで新生会」を開催。当日は四つの高校から総勢一〇名の参加をいただきました。



楽々リフト体験



新島短大の皆さんとの交流

について、施設内の食事体験や車いすや移動リフトなどの介護体験、スタッフとの懇談に加え、ボランティアに來会されていた新島短大の学生さんとも交流を持つことができ、ゆるく楽しみながら老人ホームについて、またその魅力を知っていただく機会となりました。

老人ホームの印象はどうしてもネガティブ。でも、「実際に施設に入ってみるとお年寄りもスタッフも施設の雰囲気も、どれも想像と全然違う。介護の仕事もいいなと思った」なんていう言葉もいただき、やってよかったとスタッフ一同胸を撫で下ろしました。

今後も新生会の魅力を発信しながらリクルート活動を行っていきますので、最新情報は是非Instagramからよろしくお願ひします。

ファミリーサマーキャンプin新生会二〇二四

「普段できない事を思いっきり楽しんで。」と原慶子理事長の挨拶で幕を開けたファミリーサマーキャンプ。四年ぶりの再会に素敵な夏の思い出を求めて四〇名の子どもたちが

新生会を訪れました。暗夜行路から始まったプログラムで子どもたちもすぐに交流の輪が広がり、昼食は自分たちでホットドッグを作りご満悦。プールで遊んだ後はアクセサリー作りや魚釣り、ハンデイングゲームや居住者との交流と盛り沢山のプログラム。

夕食後は宿泊者の体験プログラム。くらぶち子ども天文台に移動して夜空に輝く星たちを眺めるひと時は子どもだけでなく大人たちも思わずとれてしまう程。子どもたちの興奮は冷めず、全員が眠りについていた事は保護者の皆様には内緒の話です。

二日目は日の出よりも早く起き、「お腹が減った。」



元氣よく楽しもう!!



初めてのうどん作り

と元気な声が響き渡ります。二日目のプログラムは自然観察と手作りうどん体験。特別講師による自然観察は日々、見落としがちな自然の豊かさや様々な気づきを与えてくださいます。食べ物を一から作る事の難しさ、食の大切さを楽しく美味しく学べたひと時でした。

人と人との交わりを大切にする新生会ならではの企画。そこには老若男女問わず、笑顔が咲き誇っていました。今年度からは学生アルバイトの募集も行い、総勢一七名がエントリーして下さいました。学生たちは青春時代をコロナ禍で過ごした世代でもあります。人と人が直接触れ合うこの体験を今後も継続すると共に、新生会に携わって下さった全ての方々の笑顔がこれからも続く事を願っています。

第二九回 社会福祉 研究 交流 集 会

去る八月三十一日、九月一日に総合社会福祉研究所が主催する交流集会在開催され、新生会からは八名の職員が参加しました。当初、立正大学品川キャンパスを会場に開催される予定が、接近する台風の影響もあり、急遽完全オンラインでの開催へと変更になり、準備に大慌ての数日間となりました。

分科会では誠の園の若林園長が座長を務め、小野沢ソーシャルワーカーが報告しました。「福祉の仕事の魅力と担い手不足」が分科会のテーマでした。小野沢さんは、ケア専門員制度とICTの上手な活用法に触れながら、高齢者分野における担い手不足の理由の一つに、職場に魅力がないことが挙げられるのではと問いかけました。ケア専門員制度を立ち上げ、専門性を磨き、基準をケアワーカー自らが決め、それがやりがいにつながっていること、ICT活用は事実と根拠に基づいたケア提供の為の手段として導入したこと、人との関わりに手間をかけることこそがケアの本質であることの報告に、有意義な時間を共有することが出来ました。



カルチャーホーム恵泉園 パンフレットリニューアル

この度、恵泉園のパンフレットがリニューアルされました。養護老人ホームから有料カルチャーホームに事業転換し、装い新たにA4サイズにサイズアップ。見やすさを重点に置きながらも、恵泉園の魅力を余すことなく盛り込んでいます。パンフレットの写真は、プロのカメラマン撮り下ろしの写真を使用。建物はそのままに、変わったところを分かりやすく載せています。

表紙を飾るのは、画家の小林裕児さんの「楽園」です。恵泉園の新たな門出にふさわしい表紙に仕上がっております。

恵泉園に興味のある方、これから入居を検討されている方、ぜひ新しくなった恵泉園のパンフレットを手にとってご覧ください。施設見学等いつでもお待ちしております。



楽園

桜が丘コンサートと教養講座

春夏シーズンの桜が丘芸術ホールでは毎月のように演奏会が開催されています。五月のウッド奏者、常味裕司さんに続いて六月は共愛学園聖歌隊の皆さん、そして声楽家の辻真美さんとピアノニスト金井梨沙さん、七月はクラリネット奏者の千葉理さんとピアノニスト仁井谷久美子さん、八月にはフォルクロローレグループの「ルリビタキ」さんが南米の様々な楽器を携えてやってきてくださり、九月にはウィーン音楽大学で講師を務め、草津夏期国際音楽アカデミーの仕事を終えて、細木朝子さんがピアノとお話でアットホームな演奏会を開催してくださいました。

そんな中、教養講座も行われ、なんと今回はソプラノの岸田順子さんとピアノニスト須江太郎さんによる演奏会。岸田さんは一一年前に中咽頭癌により余命宣告を受け、その生命線でもある声が全くでなくなり一時は歌うことができなくなったにもかかわらず、奇跡の復活をなしたとげ、昨年五月には府中の森芸術劇場でリサイタルをされた声楽家です。原理事長は、その歌声を、清く、深く、純粹で透明で、魂の底からほとばし

る、湧き上がってくる祈りの歌唱だと私たちに伝えてくださいました。迫力のステージは歌う喜びと深い祈りに満ちていました。なかでも、桜が丘芸術ホールに飾られている詩書、「赤い風船」に共感した居住者のリクエストに応じてアコーディオン奏者、熊坂路得子さんが歌曲にした「赤い風船」や、七月に急逝した職員、早瀬川理絵子さんの愛唱讃美歌「丘の上の教会」など、エピソードとともに披露いただき、また、一緒に歌うことで、悲しみの中にある職員も思いを共感しわずかでも癒されることができました。

ライブでの演奏はステージと客席が呼応しあって音楽は豊かに広がってゆきます。一体感溢れる演奏会は桜が丘芸術ホールならではのものです。一月には群馬交響楽団メンバーをお招きしてのアンサンブルコンサートの開催が決定しています。

これから
も沢山演奏
会を開催し
たいと思っ
ますので、
みなさまど
うぞお楽し
みに♪



ホームアラカルト

介護付有料老人ホーム
新生の園

グルメの会

今年の夏も厳しい暑さで連日のように酷暑日となっていました。

新生の園では夏バテ予防のため、うなぎパワーで夏を乗り越えました。八月のまだ暑いある日、藤岡市にあるうなぎ屋と言ったらこの店「蔵 柏屋四郎右衛門」さんに出かけました。その日は台風九号が接近し、実施できるか心配もありましたが一日ほとんど雨が降ることもなく過ごせました。



あっという間に完食です！

店に到着すると名前の通り蔵の中に入っていました。ここは旅館の一部を再生し、うなぎ屋になったそうです。席に着くとすぐにできたて

アツアツの香りの高い浜名湖産のうなぎが運ばれてきました。うなぎがふっくらしていてタレ加減も丁度良く、皆様美味しくペロリと召し上がっていらっしゃいました。

大満足の一行が次に向かった先は「藤岡歴史館」です。藤岡、群馬、日本、世界の歴史の資料等が展示されています。県外出身の居住者の方が多いですが藤岡や群馬のことについて興味津々でした。



藤岡歴史館にて記念撮影

歴史に触れ、頭を使い、そろそろ小腹が空く頃。一行は道の駅「ららん藤岡」でソフトクリームを召し上がり、帰路につきました。

夏バテ防止で出かけたグルメの会は大盛況に終わりました。次のグルメの会も楽しみにしていってくださいね。
(新井美樹)

健康型有料老人ホーム マリヤ館

マリヤ館近景

今年の夏は、今までにない猛暑でしたが、マリヤ館の居住者様も、健康に夏を乗り切りました。

ホームアラカルトでは、主に居住者の皆様のご様子やイベントの様子を発信してまいりましたが、今号では、マリヤ館の周囲・近景をご紹介しますと思います。

ご存じのとおり、新生会は高崎市西部榛名山麓に位置し、標高は三五〇メートル程の高さになります。マリヤ館屋上からの景色はマリヤ館の自慢でもあります。毎年八月一日には地元の花火大会が開催されその様子を屋上から見ることができます。



また、豊かな自然に囲まれた環境は、周囲に季節に応じた多くの花々が咲き乱れ、見る者の心を和ませます。ちょっと珍しい草花・樹木が庭園を彩っているのも、新生会の魅力の一つだと、居住者様、見学にいらした方からお声かけ頂きます。

自然にある花々だけでなく、居住者の皆様がお世話し、持ってきてくださった花々も、それは、美しく咲いております。

四季折々の自然と風景を感じ、新生会・マリヤ館の近景をお楽しみ頂けたら、職員も幸甚でございます。

(原 孝洋)

介護付有料老人ホーム
穂和の園・桜の園

夏祭り

夏祭り開催。ダイルームには職員お手製、涼やかな飾りが彩り、ピックアップ写真も皆様に観てもらえるようにした会場が完成。いつもとは一味違う、囃子の音に、賑やかな「いらっしやい」の声が響きます。ウェルカムバルーン(水風船)を手に、「何にしましょう。」と屋台とまではいきませんが、各種取り揃えた、焼き鳥、ポテト、アイスクリームなどなどお楽しみいただきます。

射的コーナーでは担当者の独断で、判定アマアマ、景品バラマキ。楽しければいいでしょ精神で運営。最後は余興的に職員の頭のスイカめがけてストレス発散の一撃をお見舞いいただき、かくて夏の宴は過ぎていくのでした。(中澤一夫)



大変盛況でした

梨狩り

秋の爽やかな天気の中、と言いたいところですが、残暑厳しく汗ばむ晴天。悴田梨園へ向かい、梨狩りスタートです。果樹園のスタッフから梨の取り方を教わり、収穫開始。今年の梨は雹害などもなく、出来はどれも良いとのこと。と言われても、大きくて立派な梨を探すのが人の常、皆さんの目は真剣です。

梨狩りの後は、果樹園内の休憩スペースで涼を取ります。狩ったのと同じ豊水がサーブスで出てきたので、カットして提供。皆さん「甘い、おいしい」と頬張っています。ソフトクリームもいただいて、火照った体も涼んだら、お土産、贈答と売店を眺めて検討です。狩りより真剣な方もちらほら。満足いただくお買い物もできたようです。(中澤一夫)



豊水、豊作、豊かな笑顔

有料カルチャーホーム
恵 泉 園

みんながって、みんないい。

今年の夏は例年よりも暑い日が続き、九月の半ばでも三〇℃を超えていました。いったいいつまでこの暑い日が続くのかと心配していましたが、暑さ寒さも彼岸までとはよく言ったもので、徐々に秋らしくなってきました。秋と言えば食欲の秋、読書の秋、芸術の秋とありますが、恵泉園ではスポーツの秋が来しました。

ある秋空の広がった澄んだ日、恵泉園の四階ステーションでは、ミニ運動会が開かれていました。紅組と白組で分かれたチーム戦。白熱しないはずがなく、みな手元に渡された玉を一生懸命に籠に投げ入れて、競



いざ矢合わせの時

い合いました。接戦を繰り広げ、結果は引き分け。最後はお互いを拍手で讃え合い、仲良く終わりました。やはり競技ひとつみても皆それぞれ入れ方が異なり、矢継ぎ早に入れる方や、確実に籠に入れるため慎重に入れる方、一気に入れる方などさまざまでした。

小ささまざまな個性は、時にぶつかり合い、時に支え合う。個性豊かなことが恵泉園だと思います。それは、事業が変わり、人が変わっても脈々と受け継がれています。人数が大幅に減り、現在は十数名の方がご入居していただいている恵泉園。これからもっと賑やかに、より活気づいた園になるよう祈りつつ、努めてまいります。(新井溪司)



勝利はどちらの手に…!

軽費老人ホーム

バルナバ館

七夕飾り

七月三〇日、共愛学園高等学校三年生のボランティアの方も参加して、館内の七夕飾りつけを行いました。今年は例年のように事前に有志の方が集まって飾りを作る時間があったにもかかわらず、折り紙の会のメンバーをはじめ、たくさんの方々がそれぞれ七夕に合う飾りを作ってきて下さいました。

飾りつけをしている間も「こんな飾りはどう？」との提案にみんなで作りはじめたりもしました。居住者の方に教えていただきながらおしゃべりもして出来上がりを見せ合いました。飾りと一緒に吊るした短冊には皆様の願いの他に、万葉集の中から七夕を詠んだ和歌も書きました。たくさんさんの色とりどりの飾りで飾りつけられて館内がとても華やかになりました。来年はみんなで集まる期間を設けられたらと思います。

(星野晴美)



皆様の願いが叶いますように

奇蹟のカンパネラを辿る

「ぶっ壊れそうなピアノの演奏があったっていいじゃない？私は機械じゃないんだから！」一九九九年NHKでフジコ・ヘミングのドキュメントが放映され、彼女は一躍「時の人」となりました。

名作を読む会でも『フジコ・ヘミングの言葉』を特集、音楽鑑賞会でも『ラ・カンパネラ』等ピアノの演奏がプログラムに取り入れられました。根強い人気です。

惜しまれつつフジコは、今年四月に九二歳で天に召されました。八月に彼女の「奇蹟のカンパネラを辿る旅」の特集を居住者の方たちと観る機会を得ました。

六七歳でブレイクしたこと、一つの道で苦難に負けず生きてきた事、情熱の強さを感じる等感想をお聞きしましたが、皆で分かちあえた静かな時間は、豊かな恵みの時でもありました。

(山崎祐子)



みんなでフジコの奇蹟を辿りました

軽費老人ホームA型

棟名春光園

夏祭り

毎年恒例の夏祭りが今年もやって参りました。玉川聖学院の生徒さんたちとの触れ合い中、今年はコロナ禍を経て盆踊りが数年ぶりに復活しました。始めは、慣れない動きで上手く踊る事ができませんでしたが、春光園ダンスサーこと下野Nrsが中心となり練習を重ね、気付けば一団となり見事に上達していききました。

本番では酔っ払った居住者が頭にと奥尔を巻いて参加され、笑いあり涙あり？練習の成果を出せました。

夕食のバイキングでは調理スタッフが腕によりをかけたメニューが数多く並び、参加者の舌を見事に唸らせていました。最後は生徒さんが将来の夢や目標を語る一幕もあり、気付けば会場は一つとなり、心温まる夏の夜となりました。

(佐藤靖子)



伝統の玉川聖学院との夏祭り

子どもたちとの交流

ファミリーサマーキャンプの一環で体験プログラムがあり、その一つが「居住者との交流」。会場は春光園のロビーで行われました。参加されるお子さんが楽しめるよう職員と居住者が一つとなり「チーム春光園」として会議を重ね本番を迎えました。お手玉やステンシルの体験、独楽作り、そして図書館で借用した本格的な台を使用した紙芝居を行いました。個性豊かなお子さんへの関りは、さすが春光園が誇る精鋭集団！経験豊富な知識と巧みな話術でお互いに楽しみながらの交流が生まれました。

この日の春光園は、人生の大先輩である居住者の皆様が、まさに現役時代へ若返り、生き活きとした姿を魅せて頂きました。ご協力いただいた皆様に感謝です。

(細山教子)



本格的な紙芝居です

特別養護老人ホーム

様名憩の園

今、話題のお食事処へ

久々の外食に心弾ませ、意気揚々と話題のある場所【榛名ドライブイン】に向かいます。談笑しながら車を走らせること一〇分ほど、無事到着です。趣のある外観もさることながら店内の雰囲気にも職員もテンションが上がります。店内に貼られたメニューを見ながら長考することおおよそ五分、無事オーダーを済ませ料理を待ちます。到着した料理のボリュームに驚く職員の心配をよそに美味しそうに召し上がる日さんとMさん。ほぼ完食され満足げな笑顔を見ると先ほどの心配は杞憂のようでしたね（笑）。名残惜しいですが帰り支度を済ませ車に乗り込み憩の園へ…。お腹も心も満たされる外出となりました！

（富田敦貴）



趣のある店内と腹ペコ四人衆

外出レクリエーション七月二三日

今日は、Mさんが楽しみにしていた外食レクです。車内ではその話題で持ちきりです。『安中のココスに向かいます』と伝えたところ「それは凄いな！どんなレストランなの？」などと楽しみなご様子。車窓から景色を眺めたり、冗談など飛ばしあいながらの愉快なドライブです。約一時間かけてゆつくりと到着。つく頃にはお腹はペコペコ。メニューを見て「こんな大きなステーキがある。美味しそう〜」などなど。

結局は全部食べられそうにないかと、ハンバーグステーキを注文する事に。配膳ロボが注文した食事を運んでくると、目を丸くして「たまげた〜！こんな初めて見た！」「自分で持つてくるなんて凄い！」と感動しておりました。完食されて帰路に着きました。

（齋藤 禎）



熱々のハンバーグ

特別養護老人ホーム

誠の園

『下から見るか？上から見るか？』

新生会のInstagramでもご報告した「桜が丘花火大会」。その裏側で夏の終わりを楽しんでいた様子をお伝えしましょう。

花火には美味しい料理に楽しい仲間、そしていい音楽が付きものですよ。花火Ⅱ夏ⅡバーベキューⅡとということで、花火大会の前にビアホールを開催。アルコール、肉好きの紳士と淑女にお集まりいただきました。お肉は食べきれないほどの量を準備。おそらく牛一頭分はあるのかと思われるほどでしたが、焼いても焼いても追いつかないほどで焼き場もびつくり。アルコールに合うようなおつまみも売れる売れる、売り切れる。参加した方たちは飲むわ食べるわしゃべるわで、おそらく花火どころではなくっていたのではな

いでしょか。

さて、別会場は打って変わって落ち着いた雰囲気。桜が丘調理スタッフが目の前でフルーツをカットイング。細かい包丁捌きに『食べるのがもったいない』と、思っていたのは職員だけで参加された方たちは我先に！と、夢中でした。こちらも花火どころではなかったでしょうね。

今年花火大会開催前に二つの会場を設け、花火大会前から楽しんでいただきました。好きなようにイベントを楽しんでもらったり、普段なかなかお話をすることがない、居住者とコミュニケーションをとったりと、自由と交流がありました。肝心の花火大会も天候にも恵まれ大好評のままフィナーレ。中庭に咲いた大輪の花が『また来年』と夏の終わりを告げているようでした。

（小野沢剛昌）



特設肉祭り会場の様子



芸術作品のようなフルーツ

特別養護老人ホーム
エンジェルホーム

初秋のぶどう狩り

九月六日、残暑の中、久しぶりの外出行事が行われました。

最初に向かった先は、秋と言えばぶどう狩り、ぶどう狩りと言えば榛東村、ということ、多くのぶどう園がある中、今回訪れたのは、圭月園。現地について、ぶどう棚に案内されると、日陰になっていて、強い日差しから守ってくれて過ごしやすい環境。そんな中、お店の方が用意してくださったビオーネとシャインマスカットを皆さん食べ放題のごとく夢中になって食べていました。なかなか食べられないですもんね。気持ちわかります。つづいて、お待ちかねのぶどう狩り。車椅子からでは届かないため、立ち上れる方が参加され、指定したぶどうを専用のハサミを使って取りました。取ったぶど



おいしいぶどうをどうぞ!



ぶどうを取ってご満悦♡

うは、伊豆錦という、けっこう高い珍しい品種らしく、大きなぶどうを持って、ニッコリご満悦な表情でした。

次に向かったのは、伊香保に向かう途中にある、昔懐かしいたずまいの鹿火屋（かびや）です。中に入ると、囲炉裏や土間があり、居住者にとっても懐かしい景色ではないでしょうか。ここでは、これまた懐かしいラムネやくず餅、炭火で焼いたトウモロコシと、昔ながらの食べ物のおパレード。暑いので、まずはラムネで水分補給し、いざ実食。くず餅は甘く柔らかく、トウモロコシも甘く香ばしく、これまた皆さん夢中になって食べていました。食べ終わった後の表情は、皆さん満足感に満ちていて、いい思い出になったのではないのでしょうか。来年もまた来たいものですね。
(福田恭平)

HALC自然学校

お出かけ企画&サマーキャンプ

七月一七日（水）会員一三名とスタッフ五名の全一八名。七月一九日（金）会員二〇名とスタッフ六名の全二六名が参加して長野県東御市の池の平湿原に行ってきました。現地は標高二〇〇〇m、気温二〇度位でひんやりとした空気の中、湿原入口より二km先のコマクサを観察する組と木道を八〇〇m程下って湿原を見渡せる場所周辺を散策する組に分かれて約一時間程度滞在して、昼食場所の湯の丸高原ホテルへバスで移動しました。

午後は群馬県嬬恋村方面をドライブしながら北軽井沢の久保農園農産物直売所に立ち寄り、朝採れ新鮮野菜を購入し、ウエルカムセンターへ無事に帰ってきました。



池の平湿原の木道

八月二一〜二二日はファミリーサマーキャンプイン新生会に参加して「ネイチャーゲーム」を提供しました。子供達との交流は久しぶりでいつもと違う顔ぶれにスタッフもはじ

めは戸惑いつつも参加者と楽しい時間を過ごしました。夜のセツシヨンでは、くらぶち町の「こども天文台」にて現地解説員の説明を受けながら夜空の星座観察を行いました。

九月四日（水）は会員一六名とスタッフ七名の全二三名。九月六日（金）は会員一九名とスタッフ七名の全二六名が参加して草津方面にお出かけ自然体験に行ってきました。

まずは戦後復興に貢献した「群馬鉄山」の遺構「旧太子駅」を見学。そしてハンセン病国立療養所栗生楽泉園の敷地内にある重監房資料館ではガイダンスビデオを視聴し、実寸大部分再現展示も見学しました。

草津温泉湯畑付近の大滝の湯で昼食後、中之条町にある国指定天然記念物のチャップミゴケ公園へ。園内巡回バスが用意されるほど、植生保護が厳重でした。穴地獄から湧き出る強酸性の鉱泉の育まれたコケ群生は圧巻でした。
(稲垣 仁)



チャップミゴケ公園巡回バス乗降場

新生会職員が上毛新聞で掲載される活躍を見せて下さったので、ご紹介



(上毛新聞 2024年9月23日付)

エンジェルホーム吉川幸二郎園長は道路で座り込む高齢者を保護し、渋川市警察署より表彰を受けました。記事にもある通り、「助けることに迷いはなかった」と、老人ホーム職員の鑑のようなコメント。居住者も安心できる人柄です。
穂和の園三木喜貴ケアワーカーは群馬県軟式野球第52回県クラブ大会において殊勲選手の個人賞を受賞しました(写真左上)。決勝は残念ながら敗れたものの、4番バッターとして、ホームランによる得点の活躍を見せました。

高齢者保護で感謝状

前橋の吉川さん夫妻に

高年齢者を保護し、事故を未然に防いだとして、渋川署(佐藤英明署長)は30日、前橋市の社会福祉士、吉川幸二郎さん(52)と妻の真由美さん(40)に感謝状を贈った=写真。

2人は8月9日午前10時半ごろ、渋川市半田の国道17号を走行中、中央分離帯に座り込む男性(82)を発見。近くに駐車して男性を別の場所に誘導した

後、110番通報して保護につなげた。幸二郎さんは「助けなくてはと、迷いはなかった」と話し、真由美さんは「無事に家に帰れたようで良かった。まさか感謝状をもらえるとは」と驚いた様子だった。佐藤署長は「大きな事故になりかねなかった。迅速で適切な対応に感謝している」と述べた。

(吉越琴野)

(上毛新聞 2024年9月2日付)



記事のご紹介 「上毛新聞」より



寺島 綾香 (テラジマ アヤカ) 26

- ①出身地
- ②職種
- ③趣味・特技
- ④好きな有名人
- ⑤自分にとって一番の贅沢は
- ⑥好きな言葉

新生会 紹介

榛名町の中山美穂、新生会の吉瀬美智子と言えば、憧れの実香先輩。こと、ジョージが丘看護課サブチーフ、西脇実香ナースである。元々は短大を卒業後、カーオーディオメーカーのクラリオンに営業事務として就職。その後、結婚、出産を経て、シングルマザーとなり、三五歳にして、ナースになることを決意する。五年もの歳月をかけて正看護師となり、はんなさわらび療育園で働いた後、二〇一六年に新生会に就職。



ジョージが丘看護課サブチーフ 西脇 実香さん

もうひとりの私⑬

ときどき意外な毒を吐くこともあるが、難病にかかり、話ができなくなってしまう居住者から、文字盤を使って「ありがとう。だいすき」と伝えられたその優しさは、まさに白衣の天使である。一人娘もナースとなって独り立ちした現在は、自宅で飼うポメラニアンに母性の全てを注ぎ込み、愛犬のために自宅の庭の手入れに余念がない。つかの間の休息には、お気に入りのルピシアの紅茶を飲みながら、ネットで購入した謎の機械で、ドラマや映画を楽しむのが至福の時間である。すでに五〇代も半ばとなったが、これからさらに年齢を重ねても、クラリオンガールのようなプロポーションを維持し、素敵な笑顔で、居住者の皆様を癒してくれるであろう。

カップル紹介



新郎 新井 漢司さん (恵泉園)
新婦 (旧姓:長壁) 美樹さん (新生の園)

文 芸

春光ギャラリー



心優しい手芸の会の貴婦人方です

榛名春光園 公認サークル

「手芸の会」

榛名春光園では土曜日に居住者の方が中心となり、活動を行っています。思い出の布や毛糸を使用し、手芸作品を作製しています。手先の運動はもちろん、会員同士の楽しい交流の場でもあります。

11月3日(日)の新生会祭りでは、昨年に引き続き、春光園ロータリーにて出店販売する予定です！

愛を込めて一針ずつ縫った作品をご覧に見えてはいかがでしょうか。

皆様のお越しをお待ちしております。



温かい毛糸作品



センス光るお出かけバッグ



刺繍で明るく花フキン



残り物に服を着たる

詩 歌

秋三題

笠井 昭次

緑葉に黄葉を添えて秋歩む

紅き葉と黄葉まじりて秋探し

朽ちし葉を路上に残し秋去りぬ

オーサム

生前に遺影を渡す複雑さ

ベッドから転がり落ちて眼を覚ます

同性婚権利確保賛同す

懐しいワオーの声が口癖に

生涯の途上におけるハプニング



ケアに生きる (154回) 榛名憩の園 ケアワーカー 大澤 敦子

私は幼い頃、祖母が認知症の祖父を介護する姿を見て育ちました。子供ながらに、大変だなぁという想いと、祖父への深い愛情を感じ、祖母が介護を必要になった際には、私が介護を必要に思うようになりました。高

校生になり、新生会のボランティアに参加する機会があり、居住者の方々に母の日カーネーションをお渡しした時、涙を流して喜んで下さったことには大変感銘を受けました。そのような想いから福祉学科に進み、新生会に就職。始めは

恵泉園、現在は、榛名憩の園のケアワーカーとして勤務し、早いもので勤続三〇年となります。

就任当初は、何をしたいのか分からず悩み、迷い、辛く感じて暗い顔をしていたのだと思います。そんな時、ある居住者の方から「そんな顔見ていたら、こっちが暗くなっちゃうよ。」と、言われた事を強く覚えています。まず必要なのは明るくふるまひ、心地よく感じて頂く事が大切だということに気づかされました。

今は自然と毎日出会いたくさんの笑顔に救われ働くことが出来る日々幸せを感じております。

これからも「最後までお世話させて頂いた」という新生会の誓いの言葉を心に留め、居住者の皆様が安心して笑顔で生活できるよう、心に寄り添い、愛あるケアに努めて参ります。

カサカサと哀しき音す君の骨
我に吹き来よ千の風になり
「おかえり」と迎える人は今はなく
故郷の海山我を迎える
「暑いでしょお墓の中も」孫達は
水まきをする猛暑の中で

マリヤ シュガー

福田絃晴
炎え咲くやながき残暑を百日紅
電線に群れなす帰燕榛名翔つ

新生日記

〈7月〉

- 5日 職員採用試験
- 5日 はるな自然体験クラブ お散
- 歩自然観察会
- 7日 午前の部…1名参加
- 午後の部…3名参加
- 就職説明会
- 17日 群馬パース大学福祉専門学校 校内就職説明会 2名出席
- 30日 創立67周年記念式並びに祝会 永年勤続表彰44名受賞
- 勤続35年5名 勤続30年1名
- 勤続25年4名 勤続20年10名
- 勤続15年8名 勤続10年6名
- 勤続5年10名
- はるな自然体験クラブ お散
- 歩自然観察会
- 午前の部…5名参加
- 〈8月〉
- 6日 バルナバ原正男・ルツ原ツヤ 逝去記念礼拝
- 老人ホーム体験プログラム
- 『遊んで×学んで新生会』高 校生10名参加
- はるな自然体験クラブ お散
- 歩自然観察会

- 午前の部…1名参加
- 午後の部…1名参加
- 21日〜22日 2024ファミリース マーキャンプin新生会 44名 参加
- 23日 教養講座『岸田順子リサイタル』
- 28日 はるな自然体験クラブ お散
- 歩自然観察会 午前2名参加
- 31日〜9月1日 第29回社会福祉研究 交流集会in関東（WEB 8名参加）

〈9月〉

- 4日 はるな自然体験クラブ お出
- かけ自然体験 バスで行くエ コツア
- 草津・重監房資料館とチャツ ボミゴケ公園をめぐる旅
- 5日 職員採用試験
- 6日 はるな自然体験クラブ お出
- かけ自然体験 バスで行くエ コツア
- 草津・重監房資料館とチャツ ボミゴケ公園をめぐる旅
- 11日 就職説明会
- 17日 はるな自然体験クラブ お散
- 歩自然観察会 5名参加
- 19日 秋の募参会 38名参加
- 20日 職員採用試験
- 27日 はるな自然体験クラブ お散
- 歩自然観察会 5名参加
- 28日 【高崎】地区別福祉の仕事フェア2024（イオンモール高崎 2名出席）

外堅心支援団

—新生会後援会便り—

日増しに秋の深まりを案じる季節となりました。後援会を通じて、多くの方々に温かいご支援をいただきまして、心より感謝申し上げます。引き続きご理解、ご協力をお願い申し上げます。

HALCセンター建設のための特別募金総額 168,852,128円（2024年9月末日現在）

新生会後援会加入のご案内

- 個人会員 年間会費 1口 1,000円以上、毎年ご寄付して下さる方。
- 法人会員 年間会費 1口 10,000円以上、毎年ご寄付して下さる方。

募金の結果や使途につきましては小冊子「感謝録」にて毎年報告させていただきます。

寄付方法

郵便局からの振込み 振込口座 00160-6-48594
加入者名 新生会後援会

銀行からの振込み 群馬銀行室田支店普通預金0075469
名義 新生会後援会会長 中澤宏則

所得税等の減免手続きをご希望の方は、ご寄付くださる際にその旨を申し出てください。社会福祉法人新生会より寄付金領収書をお送り致します。

ホームページ <http://www.sinseikai.org/>
E-mail human-office@sinseikai.org

編集後記

今年も猛暑の夏でした。やっと秋を感じる今日この頃。皆さんはどんな時に秋を感じるでしょうか。私は匂い、です。上品に言うなら「香り」でしょうか。秋の初めの残暑、暑いけれど夏の暑さとは違う匂いや空気感。夕立の後の匂いや積もった落ち葉の匂いなどです。秋だけでなく季節ごとの匂いがあります。また、雨や雪が降り始める前にはそれぞれの匂いがします。このような自然に関する匂いの話をすると「何言ってるの?」という反応の方もいます。その説明をするのが面白かったりします。先日、居住者の方が日本の四季が無くなってしまふような気がするとおっしゃっていました。夏の暑さだけではなく、降雪量の変化や集中豪雨の多さなど明らかに二〇年、三〇年前とは違います。四季の移りも変わってきました。身近なところでできる自然にとつていいことを続けていきたいと感じます。（関通）

表紙の写真

榛名湖の紅葉
榛名春光園 松村康さん撮影

新生 第47巻 秋号
発行日 令和六年一〇月二〇日
編集兼 社会福祉法人新生会
発行人 原慶子
〒370-3347 群馬県高崎市
中室田町五九八三
電話 〇二七三七四 一五一一